

# 株主通信

Reliability No.1 更なる成長戦略の展開へ



第80期 報告書

2007年4月1日～2008年3月31日



## Reliability(信頼性)No.1 Your Partner for Success 収益成長型企業を目指して



久保田 隆(くぼた たかし)

略歴

1969年4月 当社入社  
1995年4月 海外第2プロジェクト本部プロジェクト部長  
1998年6月 取締役、豪亜プロジェクト総室長  
2001年6月 常務取締役、海外プロジェクト統括  
2004年6月 取締役、国内プロジェクト副統括  
2005年6月 常務取締役、技術統括  
2007年4月 取締役社長

株主の皆様には、ますますのご清栄のことお慶び申し上げます。  
また、平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は第80期(2007年度)に創立60周年を迎えました。創立来の歴史を振り返りますと、創立当時の理念であります「人材」「技術と信頼」「国際社会への貢献」は今日まで脈々と引き継がれていることを実感致します。ここに、当社グループ第80期の会社概況及び第81期の経営方針についてご報告申し上げます。

### 第80期の実績：増収減益

世界レベルでのエネルギー需要の増大により、国内外の設備需要は依然として活発であります。当社ではリスク管理を徹底し、既受注案件を確実に遂行できるよう全力を挙げて取り組んで参りましたが、完工高は増加し増収となったものの、カタルドでの空前の建設ラッシュにより生じた熟練工事従事者の逼迫等特殊な状況により、工事費が増加し、結果として、大変遺憾ながら、営業利益の悪化は避けられず減益となりました。なお、カタルドで建設中の世界最大級のLNG(液化天然ガス)プラントは、最初の1系列がまもなく完成致します。

### 第81期キャッチフレーズ「継往開来」

～先人の事業を受け継ぎ、未来を切り拓く～

第81期は、コスト管理及び安全への配慮の一層の徹底を図り、国内外の既受注案件を確実に遂行し収益の回復に努めて参ります。エンジニアリン

グ・ビジネスの基盤をより固めて次世代への継承を計るために、第80期より実施しております3つの重点目標「確実な遂行によるReliability No.1の実証」、「安全文化の確立・定着」、「次なる戦略の実行」を継続して参ります。

### 三菱商事(株)との資本業務提携について

当社は三菱商事(株)との間で本年3月31日付にて資本業務提携契約を締結致しました。本契約を通じて、プラント・エンジニアリング分野における事業の拡張に関する方向性を共有する三菱商事(株)とのシナジー効果を追求致します。また、事業領域の拡大を伴った規模拡大を目指し、その資金調達のため、また三菱商事(株)との関係強化のために、第三者割当による株式の発行を行い、約608億円の払込が完了致しました。

### 新中期経営ビジョン

三菱商事(株)との今般の資本業務提携をテコに、5年後には、現在の収益の柱であるLNG・ガス処理関連プラントに加え、新たな収益の柱を確保し、地域及び業域に多様性のある業容を持った総合エンジニアリング会社となることを目指し、現中期経営計画DSP2008終了後の第82期へ向け新中期経営計画を策定して参ります。

### グループ一体運営の強化

当社グループでは、「総合エンジニアリング企業として、英知を結集し研鑽された技術を駆使して、事業の充実を図り、持続可能な社会の発展に貢献する」という経営理念に基づき、全社員が企業活動に従事し、株主、顧客、取引先、従業員、地域社会など、全てのステークホルダーから信頼され、共感していただける企業グループ経営を目指すべく、当社創立60周年を機に千代田グループ・シンボルマークを策定致しました。今後、さらにグループ一体運営を推進して参ります。

### 株主の皆様へ

中期経営計画DSP2008を推進し財務体制の強化に努めて参りましたが、第80期は期首計画を大幅に下回る決算となり、誠に遺憾ながら今回の配当については前期比5円減の一株当たり10円とさせていただきます。なお、第81期の配当については、配当性向30%を目指し一株当たり11円の配当を予定しております。今後、企業価値を高めるため、さらなる努力を致しますので、株主の皆様におかれましても、中長期的に一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 営業の概況

当連結会計年度における当社グループを取り巻く市場環境は、海外プラント市場では、世界レベルでのエネルギー需要の増大に対応して各地でプラント建設が計画されており、国内においても、石油・石油化学会社による設備投資が活発になっています。ただし、プラント建設ラッシュが続くカタールでは、熟練工事従事者の逼迫等により、工事遂行環境は依然厳しいものとなっております。

このような環境の下、当社グループは、コスト増加への対策をはじめリスク管理の一層の徹底を継続し、カタールでの超大型LNGプラントを中心とした既受注案件を確実に遂行できるよう、全力をあげて取り組みました。しかしながら、カタール案件では、熟練工事従事者の逼迫による労務費の上昇及び生産性の低下が当初予想を上回る規模で推移したことに伴い、工事費用が増加したために、収益の悪化は避けられませんでした。

今回の収益悪化の原因である熟練工事従事者の逼迫や資材の高騰は、コントラクターのリスク管理の限界を遥かに凌ぐ規模で発生したカタール特有の事象であり、その他の海外、国内の工事損益やグループ会社の業績は計画通りであります。海外においては、ロシア初のLNGプラントとなるサハリン2プロジェクトでは、第1トレインが完成するなど、プロジェクト遂行は総じて順調に推移しております。また、国内においても、当社グループは、石油・石油化学分野を中心に、多くの新規受注案件を確保するとともに、手持案件を着実に遂行し、高水準の完成工事高を計上することができました。

当連結会計年度の連結受注工事高については、太陽石油株式会社向けRFCC(残油流動接触分解)装置建設工事や、富士石油株式会社向け高硫黄C重油対策工事などを受注した結

## 第80期の主な遂行案件(\* )は81期も継続

国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿島アロマティックス(株)アロマコンプレックス新設工事</li> <li>・マルホ(株)彦根工場第4棟建設工事(千代田テクノエース(株))</li> <li>・三菱ガス化学(株)MXDA設備建設工事</li> <li>・西部石油(株)CCR設備建設工事(*)</li> <li>・久光製薬(株)宇都宮第2工場建設工事</li> <li>・出光興産(株)北海道製油所2007年SDM工事(千代田工商(株))</li> <li>・富士石油(株)第7ナフサ水素化脱硫装置増強工事</li> </ul>
海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カタール向けラガス3社LNGプラント第6及び第7系列増設工事(*)</li> <li>・カタール向けカタールガス3社及びカタールガス4社LNGプラント第6及び第7系列増設工事(*)</li> <li>・カタール向けカタールガス2社LNGプラント第4及び第5系列増設工事(*)</li> <li>・ロシア向けサハリン2プロジェクト(*)</li> </ul>

果、2,587億54百万円(前連結会計年度比 53.6%減)となりました。

連結完成工事高については、主要な手持工事の進捗により、6,035億59百万円(同 24.5%増)となり、予想を上回りました。

利益面では、完成工事高が増加したものの、カタール案件での工事費用の増加により、完成工事総利益率が悪化し、経常利益は191億21百万円(同 48.0%減)、当期純利益は、96億40百万円(同 59.0%減)となりました。

## 受注・完工の状況

## 天然ガス・電力分野

海外においては、世界的な天然ガス需要の伸びを背景に、産ガス国やエネルギー・メジャー各社による井戸元開発・LNGプラント建設・LNG輸送船手配・LNG受入基地建設というガスバリューチェーンへの投資は各地で計画されてお

ります。このような状況の下、当社グループは大型案件の獲得のため調査業務及び基本設計業務の受注に注力するとともに、カタールを中心とした既受注案件の確実な工事遂行に向け、引き続き、全力をあげて取り組んでおります。

国内電力・ガス業界では、原油価格の高騰に伴い、LNGへの原燃料シフトや石油・電力会社のガス販売事業等エネルギー業界内でのボーダーレス化に対応するために大型LNG受入基地の新増設計画など新規案件の投資意欲が高くなり、堅調な受注ができました。

## 石油・石油化学・ガス化学分野

石油・石油化学分野においては、鹿島アロマティックス株式会社向け芳香族製造設備の完成をはじめ手持工事の遂行は順調に推移し、受注面も、重質油処理案件を中心に堅調に推移しています。また、石油製品の需要構造変化に即した生産設備対応への投資や、環境対応及び設備検診、保全の効率化

等への取組みは高水準で続いており、グループ会社を含め、好調な受注ができました。

## 一般化学・産業機械分野

一般化学・産業機械分野においては、付加価値の高い機能化学品・電子材料などの戦略製品分野への集中的投資を継続する顧客動向を踏まえ、国内及びアジア展開に注力した結果、タイMMA社向けアクリル樹脂板プラントなどを受注しました。また、医薬品関連分野では、近年の業界環境の変化に対応するため、工場・研究所の新増設をはじめとする設備投資意欲が高まっています。

## 環境・その他分野

環境分野においては、環境規制強化の流れに伴って自社開発技術である排煙脱硫プロセス(CT-121)の営業活動を国内外で継続し、その他分野においても営業活動を展開し、新規案件を獲得することができました。



三菱ガス化学(株)MXDA設備



鹿島アロマティックス(株)アロマコンプレックス

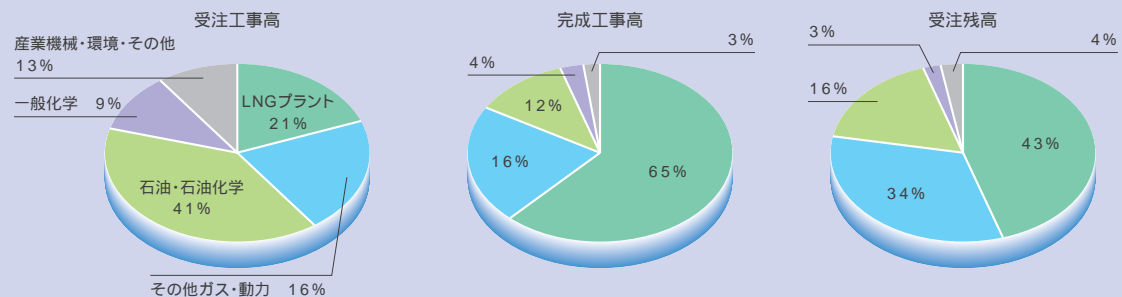


カタールで建設中のLNGプラント

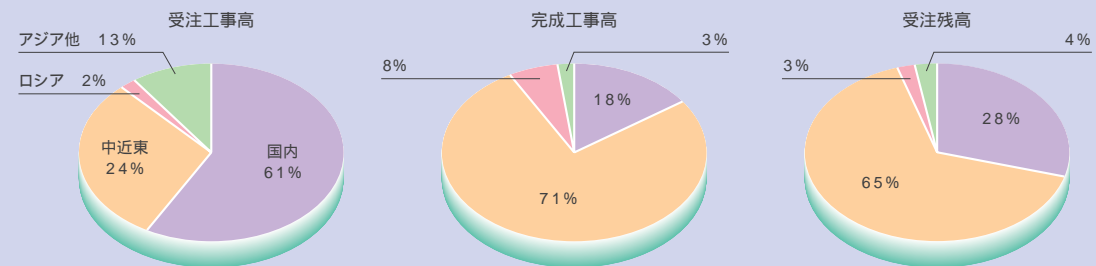


【連結セグメント情報】

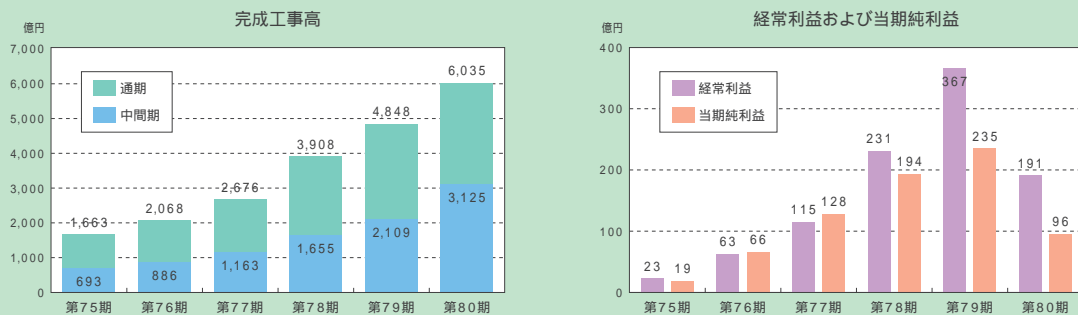
当期の分野別割合



当期の地域別割合



【業績の推移】



連結決算レポート

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第79期 (2007年3月31日現在)	第80期 (2008年3月31日現在)
<b>&lt; 資産の部 &gt;</b>		
流動資産	418,037	338,207
現金及び預金等*	77,177	70,984
受取手形及び完成工事未収入金	38,659	36,368
未成工事支出金	27,656	16,801
JV持分資産	256,060	192,683
その他流動資産	18,524	21,374
貸倒引当金	40	5
固定資産	24,915	40,612
有形固定資産	7,464	23,072
無形固定資産	3,352	4,714
投資その他の資産	14,097	12,824
資産合計	442,952	378,819
<b>&lt; 負債の部 &gt;</b>		
流動負債	351,444	293,986
支払手形及び工事未払金	86,813	74,037
未成工事受入金	231,818	185,022
短期借入金	96	10,039
その他流動負債	32,716	24,886
固定負債	14,093	3,196
長期借入金	10,067	22
その他固定負債	4,025	3,174
負債合計	365,537	297,182
<b>&lt; 純資産の部 &gt;</b>		
株主資本	77,133	83,748
資本金	12,928	12,934
資本剰余金	6,711	6,718
利益剰余金	58,398	65,155
自己株式	905	1,059
評価・換算差額等	110	2,521
少数株主持分	392	410
純資産合計	77,414	81,637
負債純資産合計	442,952	378,819

流動資産

JV持分資産が減少したことなどにより流動資産は798億円減少しました。

固定資産

当社にオフィスを賃貸していたサンライズ・リアルエステート株式会社を吸収合併したことなどにより固定資産は156億円増加しました。

純資産の部

利益剰余金の増加に伴い、自己資本は812億円となり、自己資本比率は21.4%と4.0ポイント改善しました。

\*現金及び預金等には「譲渡性預金」を含めて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

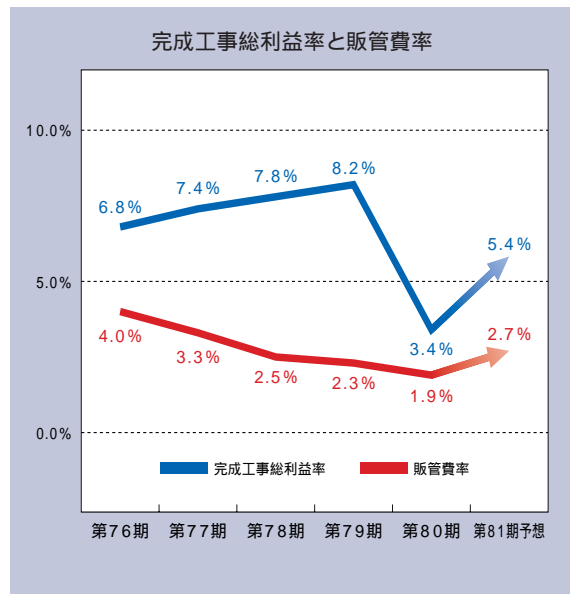
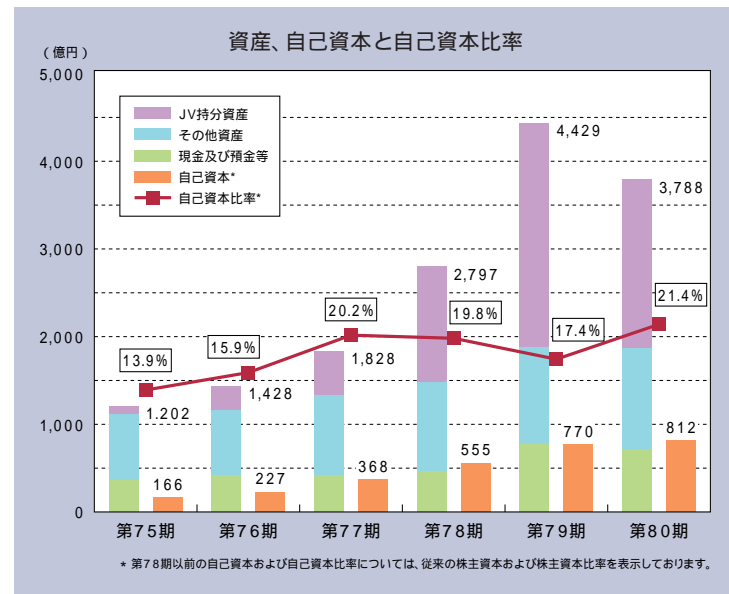
科 目	第79期	第80期
	自 2006年4月 1日 至 2007年3月31日	自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日
完成工事高	484,895	603,559
完成工事原価	445,158	583,035
完成工事総利益	39,736	20,524
販売費及び一般管理費	11,036	11,684
営業利益	28,700	8,839
営業外収益	9,373	12,030
営業外費用	1,275	1,748
経常利益	36,797	19,121
特別利益	1,171	1,051
特別損失	33	1,181
税金等調整前当期純利益	37,935	18,991
法人税、住民税及び事業税	16,209	7,355
法人税等調整額	1,866	1,967
少数株主利益	60	27
当期純利益	23,531	9,640

完成工事高  
豊富な手持工事の進捗に伴い、完成工事高は前年同期比24.5%増加しました。

営業利益  
完成工事総利益率の低下や販売管理費の増加に伴い、前年同期比69.2%減少しました。

経常利益  
受取利息をはじめとした営業外収益の大幅増加に伴い、前年同期比48.0%の減少にとどまりました。

当期純利益  
前年同期比59.0%減少しました。



連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科 目	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	小計			
第79期末 (2007年3月31日現在)	12,928	6,711	58,398	905	77,133	110	392	77,414
当期純利益			9,640		9,640			9,640
剰余金の配当			2,884		2,884			2,884
自己株式の取得				154	154			154
その他	6	6			13	2,411	18	2,379
当期変動額合計	6	6	6,756	154	6,615	2,411	18	4,222
第80期末 (2008年3月31日現在)	12,934	6,718	65,155	1,059	83,748	2,521	410	81,637

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

科 目	第79期	第80期
	自 2006年4月 1日 至 2007年3月31日	自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	35,531	14,274
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,458	3,917
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,191	17,219
現金及び現金同等物の期末残高	77,051	70,089

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益を189億円計上したことなどにより142億円のプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

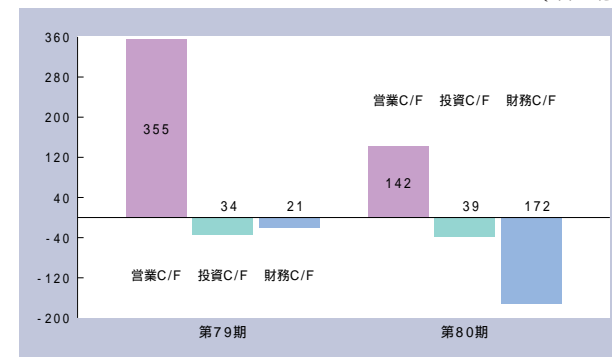
IT関連ソフトウェア投資などにより39億円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の返済、配当金の支払いなどにより172億円のマイナスとなりました。

連結キャッシュ・フロー

(単位：億円)



連結業績見通し

(単位：億円)

科 目	第80期	第81期予想	増減率
	自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日	自 2008年4月 1日 至 2009年3月31日	
受注工事高	2,587	4,500	74%
完成工事高	6,035	4,600	24%
営業利益	88	125	41%
経常利益	191	160	16%
当期純利益	96	95	1%
配当金	10円	11円	+1円

グループ・シンボルマーク制定

当社は今年、創立60周年を迎え、新たに、「千代田グループ」としてのシンボルマークを制定する運びとなりました。かねて海外案件は現地子会社で工事遂行されてきましたが、現在は、国内においても全ての出張所がグループ各社の混成部隊で遂行され、海外においてもその設計業務の半分弱はGES (Global Engineering Satellites : 海外エンジニアリング拠点) が担うなど、まさに「グループ一体経営の時代」に突入しています。

千代田グループとしての新たなシンボルマークのコンセプトは次のとおりです。  
「千代田化工建設の現行シンボルマークをアレ

ンジしたうえでさらにグループを示す『G』で囲み、現行シンボルマーク制定時の意義付け(右上方へ伸びていく2つの逆三角形は、総意の結集、ハードウェアとソフトウェアを統合したシステムおよびブレークスルーを、中の白い丸はハートを表す)を踏襲しつつ、グループが一丸となりさらにグローバルに発展していく様を表現している。また、ブルーは先進性と技術力を、グリーンはグローバル感と環境を表現している。」

今後このマークは各種使用のルールを定め、グループ旗や各社名刺への展開を予定しています。



「きぼう」搭載装置開発

2008年3月、我が国初の有人宇宙モジュール「きぼう」船内保管室が打ち上げられ、国際宇宙ステーションにドッキング、運用が開始されました。この「きぼう」には、当社のグループ会社である千代田アドバンス・ソリューションズ(株) (ChAS) が開発製造し、(独)宇宙航空研究開発機構へ納入した「画像取得処理装置」、「生物実験ユニット」等の実験装置



日本初の有人実験施設「きぼう」日本実験棟 (写真提供 JAXA)

が搭載されています。「きぼう」での宇宙実験は起動検証を経て本夏より本格化する予定ですが、ChASの装置はライフサイエンス系実験や実験画像通信の要としての活躍が期待されています。

「きぼう」プロジェクトは、宇宙での実験研究を通じて、将来の技術開発や物質製造の場としての宇宙環境の利用、さらには人類の活動領域の拡大を目指すものです。厳しい制約条件のもと高度な機能・性能の装置開発を実現する、千代田グループの総合エンジニアリング力が発揮された成果であります。



スペースシャトル打上げ (写真提供 NASA)

超大型LNGプロジェクトで相次ぎ無事故無災害記録達成

サハリンプロジェクト、SHELL社CEO HSE Award受賞

HSE\*関係ですぐれた成果をあげたプロジェクト・組織をShell社CEOが表彰する制度が設立され、当サハリンLNGプロジェクトは、その第1回CEO HSE Awardで2007年のプロジェクト・パーマナント組織237案件の中から栄えある表彰を受けました。サハリンの厳しい条件のもと、2,000万時間の無災害記録を達成したことが評価されています。

現場開設以来、当プロジェクトは、建設現場のみならず、交通事故、キャンプ施設運営をも含めた安全管理に挑戦してきました。今回の表彰は、何も無い状況から、現地事情に合わせたHSEの管理基準をつくり



Shell CEOからの表彰状



サハリンLNGプロジェクト

カタール、2,670万時間無事故無災害記録達成

生産量世界最大規模LNGプラントを6系列建設中のカタールでは、ラスガス3社向けLNGプロジェクトにおいて、無事故無災害記録を達成しております。



顧客からの感謝状

同プロジェクトの顧客ラスガス社は、QP (Qatar Petroleum) とExxon Mobilから成り、プラント建設に対する安全要求はExxon Mobilがめざす世界最高レベルのものであります。その厳しい要求のもと、安全活動の成果として、同プロジェクトは無事故無災害記録2,670万時間を達成し、当社の持つ無事故無災害時間の最長記録を更新いたしました。

同プロジェクトの工事現場組織は、ジョイント・ベンチャー (Chiyoda-Technip Joint Venture, CTJV) 相手の仏Technip社に加え、インド、フィリピンをはじめとした52カ国、約22,000人もCTJV職員及び協力業者よりなります。今回の記録は、多様性に富む巨大な現場組織が、国籍にかわりなく顧客も含めて一体となり、安全が何物にも優先すべきことを念頭にゼロ事故 (ゼロインシデント) を目指し、安全活動体制を構築できたことによるものであります。



当社グループは、「Reliability No.1プロジェクトカンパニー」、「収益成長型エクセレントカンパニー」へのダブル・ステップアップを目指して、2005年度を取り組み初年度として、2008年度を最終年度とした中期経営計画「ダブル・ステップアップ・プラン(DSP)2008」を推進しております。

DSP 3年度にあたる2007年度においては、各施策の早

期達成を目指して参りました結果、中期計画は概ね前倒して進捗しております。

DSP最終年度にあたる2008年度においては、Reliability Programの推進、更なるリスク管理の強化等により、既受注国内外プロジェクトを確実に遂行し、さらに事業計画を進めて参ります。

### 1. 経営目標(財務目標)の現況：自己資本額、自己資本比率ともに増加

ここ数年着実に増加してきました自己資本額は、2008年3月末において、前年比42億円増の812億円となりました。また、自己資本比率は、前年比4.0%増の21.4%とな

りました。

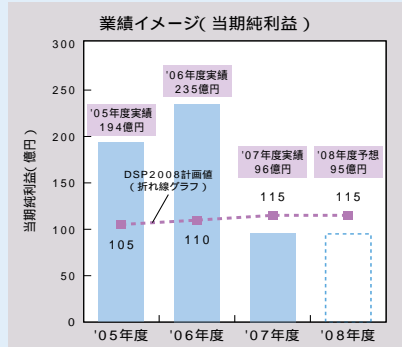
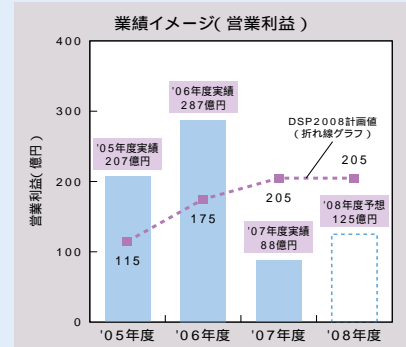
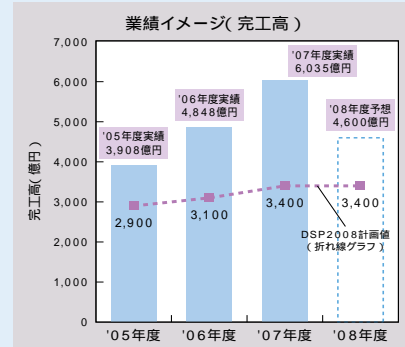
現在の手持ち工事の進捗に伴い、2009年3月末には自己資本額、自己資本比率ともに増加する見込みであります。

### 2. 事業計画関連の現況：増収減益決算

豊富な受注残高を受け新規受注を抑えた結果、受注高は2,587億円、2008年3月末の受注残高は6,700億円となりました。

国内外の工事進捗、間接部門の効率化、DSP2008施策の遂行を受け、完工高はDSP2008計画値を上回り、前年

比1,186億円増の6,035億円となりました。しかしながら、カタルにおける建設ラッシュにより生じた熟練工事従事者の逼迫等特殊な状況により工事費が増大し、大変遺憾ではありますが、営業利益は前年比198億円減の88億円、当期純利益も138億円減の96億円となりました。



### 3. 2008年度の業績見通し

2008年度の受注高は、中長期的なエネルギー需要の増大に伴い堅調に推移するマーケット環境において、前年比74%増の4,500億円を予想しております。

営業利益については、コスト管理の一層の徹底により、前

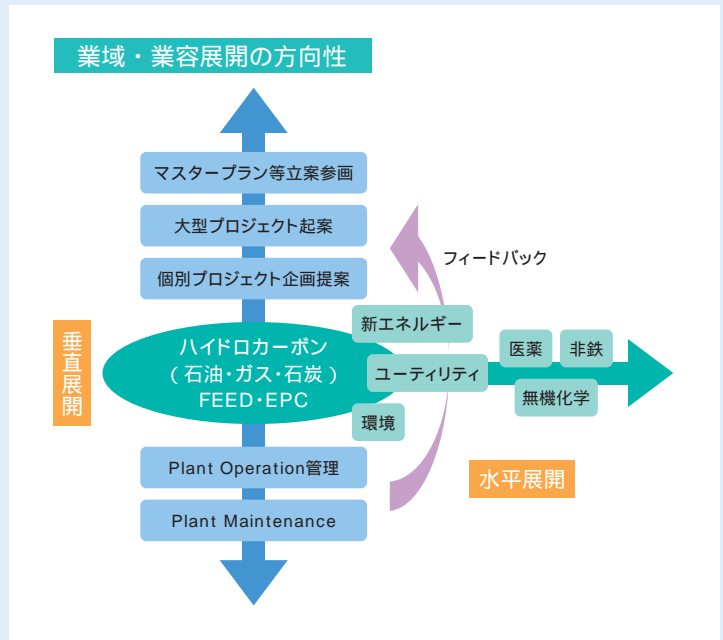
年比41%増の125億円、また、当期純利益については、海外プロジェクトの進捗に伴いジョイントベンチャー持分資産残高が減少するため受取利息が減少し、前年比1%減の95億円を予想しております。

### 4. 新中期経営ビジョン

2005年度からDSP2008により成長を図って参りましたが、今後も持続的成長を達成するためには、より一層強固な財務体質と安定した経営基盤が不可欠となってきました。そこで、三菱商事(株)との資本業務提携契約を締結すると同時に、次に示します新中期経営ビジョンを掲げ成長戦略を実施して参ります。

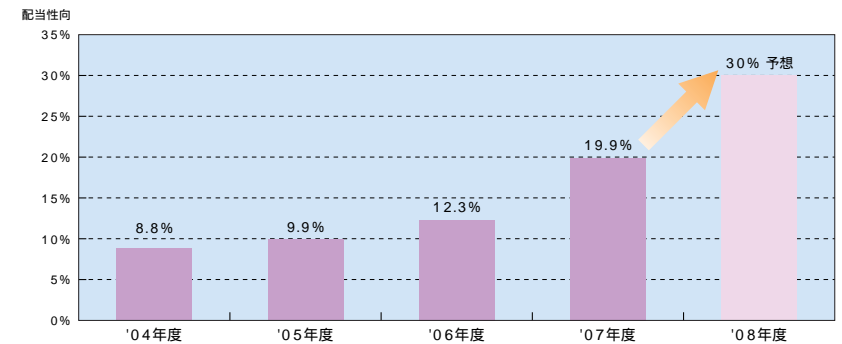
- 1) エネルギー・資源・環境分野において上流設備から下流設備まで一貫して手がける世界トップクラスの総合エンジニアリング会社であること
- 2) 千代田のブランドイメージである“卓越した技術力を発揮し、安全文化の定着したReliability No.1の総合エンジニアリング会社”を堅持すること

数値目標としては、5年後に連結年間売上高7,000~8,000億円規模、経常利益率7%を目指し、地域および業域に多様性のある業容を達成することを目標と致します。



### 利益還元

技術投資や事業基盤の拡充など次世代のビジネス創造に備えて自己資本の充実を図りつつ、株主の皆様への利益還元を経営目標の一つとして掲げ配当性向30%を目指して参ります。



会社の概況

会社概要 (平成20年3月31日現在)

設立	昭和23年1月20日	
資本金	12,934,894,450円 (平成20年4月30日現在 43,389,214,450円)	
主要な営業所 及び事務所	国内営業所	横浜、大阪
	国内事業所	鹿島、愛知、四日市、倉敷
	海外調達拠点	イタリア、韓国
	海外営業拠点	インドネシア、中国、インド、フィリピン、シンガポール、マレーシア、ミャンマー、オーストラリア、カタール、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、ナイジェリア、オランダ、アメリカ合衆国
	研究開発センター	横浜
従業員(在勤数)	単体従業員数 1,220名、連結従業員数 3,067名	
当社及び主要なグループ企業の事業内容	ガス、電力、石油、石油化学、一般化学、医薬品等の産業用・民生用設備並びに公害防止・環境改善及び災害防止用設備等に関するコンサルティング、計画、設計、調達、施工、試運転及びメンテナンス等の総合エンジニアリング事業	

主要なグループ企業の事業内容 (平成20年3月31日現在)

エンジニアリング事業	
工事遂行	千代田工商株式会社(横浜市) 千代田計装株式会社(横浜市) 千代田テクノエース株式会社(横浜市)
コンサルティング・人材派遣業	千代田コーテック株式会社(横浜市)
先端エンジニアリング	千代田アド/ンスト/ソリューションズ株式会社(横浜市)
海外設計拠点(GES)	千代田フィリピン・コーポレーション(フィリピン) エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(インド)
海外工事遂行拠点	千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(シンガポール) ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア(インドネシア) 千代田タイランド・リミテッド(タイ) 千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッド(マレーシア) 千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(ミャンマー) 千代田ベトロスター・リミテッド(サウジアラビア)
海外営業拠点	千代田インターナショナル・コーポレーション(米国) 千代田ナイジェリア・リミテッド(ナイジェリア)
その他の事業	アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社(横浜市) アローヘッド・インターナショナル株式会社(東京都港区) ITエンジニアリング株式会社(横浜市) 株式会社アローメイツ(横浜市)

役員 (平成20年6月24日現在)

取締役 会長	関 誠 夫
代表取締役 社長	久保田 隆
代表取締役 副社長	菅野 洋一
代表取締役 副社長	柴田 博至
取締役 副社長	亀井 信寧
代表取締役専務取締役	香田 淳圓
常務取締役	源 淳郎
常務取締役	中島 純夫
常務取締役	横井 悟
常務取締役	小川 博
取締役	白木 清司
常勤監査役(社外監査役)	井田 浩史
常勤監査役	下野 涉
常勤監査役(社外監査役)	伊東 正則
監査役(社外監査役)	今出川 幸寛
常務執行役員	三枝 隆治
常務執行役員	小林 秀夫
執行役員	長田 文雄
執行役員	篠原 英宏
執行役員	川瀬 健雄
執行役員	柿崎 剛
執行役員	今原 收
執行役員	島田 浩
執行役員	山下 栄作
執行役員	大沼 敏行
執行役員	白川 公一
執行役員	上地 崇俊
執行役員	木村 克俊
執行役員	三谷 学

有資格者数一覧 (平成20年3月31日現在)

資格名称	名	資格名称	名
公的資格	名	技術士 電気・電子部門	.....1
土木施工管理技士 1級	.....83	技術士 機械部門	.....12
土木施工管理技士 2級	.....2	技術士 衛生工学部門	.....6
建築施工管理技士 1級	.....28	電気工事士 第1種	.....71
建築施工管理技士 2級	.....2	電気工事士 第2種	.....11
電気工事施工管理技士 1級	.....96	電気工事士	.....3
電気工事施工管理技士 2級	.....11	電気主任技術者第3種	.....35
管工事施工管理技士 1級	.....127	鉄工1級・製罐1級	.....1
管工事施工管理技士 2級	.....15	鉄工2級・製罐2級	.....1
建築士 1級	.....54	建設設備士	.....9
建築士 2級	.....7	一級計装士	.....137
技術士 建設部門	.....4	監理技術者	.....312
国際資格(実質保有者を含む)	名	Professional Engineer 土木工学	.....3
Professional Engineer 機械工学	.....5	Professional Engineer 化学工学	.....9

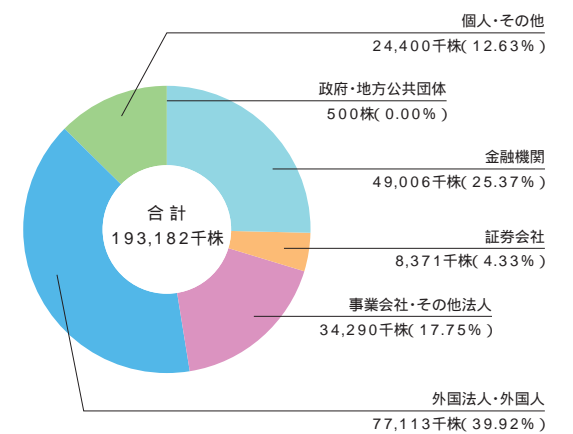
合計 1,045名

株式の状況 (平成20年3月31日現在)

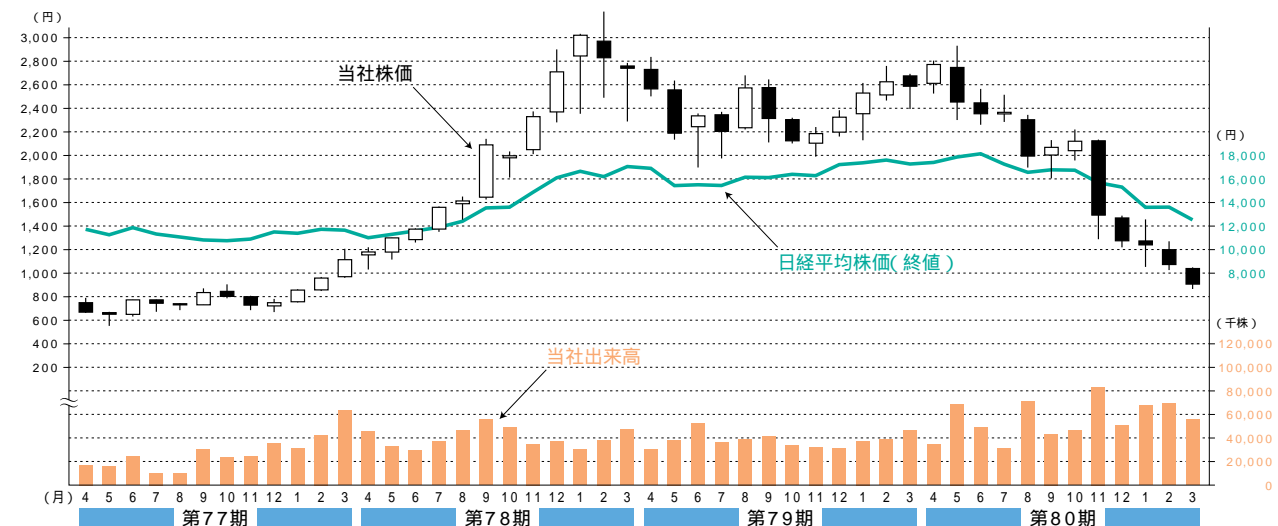
1 発行可能株式総数	650,000,000株	
株式の種類	普通株式	570,000,000株
	優先株式	80,000,000株
2 発行済株式総数	193,182,529株	
	(平成20年4月30日現在 260,262,529株)	
3 株主数	13,781名	
4 大株主		

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	構成比 %
三菱商事株式会社	19,851	10.27
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	12,107	6.26
ジェービーモルガンチェースバンク380055	10,408	5.38
株式会社三菱東京UFJ銀行	9,033	4.67
三菱UFJ信託銀行株式会社	8,034	4.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,415	3.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,368	3.29
ザバンクオブニューヨーク トリーティージャスデックアカウント	5,386	2.78
ドイツ証券株式会社	4,393	2.27
ピーエヌビー・パルバセキュリティーズジャパンリミテッド(証券会社)	3,902	2.01

所有株数別分布状況 (平成20年3月31日現在)



株式データ





## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当の基準日	3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
定時株主総会基準日	3月31日。そのほか必要がある場合には、取締役会の決議によりあらかじめ公告のうえ設定いたします。
公告掲載	電子公告 <a href="http://www.chiyoda-corp.com/">http://www.chiyoda-corp.com/</a>
一単元の株式の数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6366
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同事務取扱場所	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 <input type="text" value="フリーダイヤル"/> 0120-232-711

住所変更、配当金振込指定・変更、  
単元未満株式買取に必要な各用紙のご請求は

株主名簿管理人の  
フリーダイヤル

0120-244-479  
24時間承っております。

## 株主のみなさまの声を お聞かせください

このたび当社では、株主の皆様とのコミュニケーションを積極的に図りたいとの思いから、株主様向けにアンケートを実施することといたしました。たいへんお手数ではございますが、皆様の率直なご意見をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

皆様からいただいたご回答は貴重なご意見として賜り、今後の経営に生かしていけるよう努めてまいります。

### 《回答方法》

同封のアンケートはがきの質問事項をご回答いただき、**平成20年7月18日金曜日**までにご投函くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートでご回答いただきました内容は、今回の目的以外に使用することはございません。



**CHIYODA CORPORATION**

千代田化工建設株式会社

本店 〒230-8601 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号  
電話 045-506-7105 FAX 045-506-7109

<http://www.chiyoda-corp.com/>